

日本言語技術教育学会第4回北海道支部研究大会（札幌大会）アンケート集計結果

本大会へ御参加いただき、深く感謝申し上げます。アンケート結果を集計いたしました。いただいた貴重な御意見の数々を今後の改善につなげて参ります。有難うございました。来年度の大会もお待ちしています。

□ 大会テーマ「国語学力を形成する言語技術1～文学的文章～」に対する評価（大会内容との整合性等）

プラス評価

- ・ 正面から取り上げてくださり、有難い。
- ・ 勉強になった。良い。
- ・ どんどん参加者の意見を引き出してくれたのが良かった。
- ・ 授業改善の方法を掴み、見通しを持てた。
- ・ 良い。
- ・ 深く文学的文章の内容を読み取らせる発問や「学習用語」を使った授業などが国語学力を形成する。
- ・ 文学教材の授業づくりにおいて、言語活動を通して指導事項の定着を図る上で、これまでの現場での混乱を踏まえると一度整理しておくべきタイムリーなテーマであった。

マイナス評価

- ・ 「教材を教える」指導よりも「教材で教える」指導が大切ではないか。
- ・ 「国語学力」の実態が曖昧なので、言語技術に繋げる難しさがある。「国語科授業の質を高める言語技術1」とした方が良い。

□ 基調提案 国語学力を形成する言語技術1

柳谷直明 氏

プラス評価（特に良かったのはここだ。）

- ・ 板書に着目した授業評価が良かった。
- ・ 良い資料をいただいた。
- ・ 分かりやすい説明になるよう努めてくださった。
- ・ 学びを活用する力をつけるための「学習用語」の指導方法を学んだ。
- ・ 「学習用語」を授業で扱う意義とどの「学習用語」をいつから使うべきかなどを考えさせられた。
- ・ 具体的な板書事例から言語技術のイメージを持たせたのが良かった。
- ・ 各用語の概念規定を具体的に行ったのが良い。
- ・ 短くてためになる話だった。余計な挨拶が無かった。
- ・ 一つ一つ腑に落ちる内容だった。「他に転移する用語」「他でも使える用語」という考え方が良い。
- ・ 分かりやすかった。

マイナス評価（ここはこうしてほしい。）

- ・ 板書は授業の一部なので、「よりよい板書」というプラス方向での検討を進め、これまでの授業全体への言及は控えめにすべきだった。
- ・ 1日の雰囲気的基础となる最初のお話だったので、もっと楽しげにやって欲しかった。
- ・ 『学習用語』が言語技術だという印象を受けた。
- ・ 内容用語と方法用語の区別が必要である。

□ 模擬授業1 『たぬきの糸車』（小1）

和嶋康彦 氏

プラス評価（特に良かったのはここだ。）

- ・ 模擬授業を受ける先生方の環境が整わない中、授業をしていただき、有難かった。
- ・ 場面ごとに出来事を確認したのはお話を理解しやすく良い方法だ。面白かった。
- ・ 丁寧に「学習用語」を説明していた。
- ・ 用語が分かりやすく板書されていた。
- ・ 発問が分かりやすく、ポイントを掴みやすかった。
- ・ 事件、行動、心情という言葉をしっかり伝えている指導技術は素晴らしい。
- ・ 「学習用語」を取り入れていた指導が良かった。
- ・ 「主人公」「事件」等の問いによって読解を深めていた。特に五つの場面の内容（事件）を要約していたのが良かった。
- ・ トップバッターという重責を果たしてくれた。
- ・ 学習の押さえが明確であった。

- ・ 「用語」の指導が良かった。今何をすべきかが分かった。
- ・ 「学習用語」を使っていた指導が良かった。
- ・ 小学校1年生でも行動, 心情まで教えていたのが良かった。

マイナス評価（ここはこうしてほしい。）

- ・ 「狸を逃がしたおかみさん」という板書は出来事の記述としてふさわしくない。
- ・ 主人公が狸だという理由の説明が物足りなかった。
- ・ 小学校1年生での理解は難しいだろう。
- ・ この授業でどんな力を身に付けさせたいか最初に示しておく方が良い。
- ・ 指示が緩い。「出来事」を纏めさせる時, 「短く」だけでは難しい。
- ・ 発言へのコメントがなく, 発言の引き取り方・返し方が雑だった。また, 板書する言葉への変換も不規則だった。
- ・ 小学校1年生に要約を求める指導には疑問だ。もし求めるのなら, せめて「相手や目的に応じて」, 何のために見出しを付けさせ, 要約させるのか良く分かるようにすべきである。
- ・ 題名やオノマトペ（キイカラカラ, キイクルクル）に着目させてみてはどうか。
- ・ どこに目を付け, 何に気をつけるのかなど, 出来事の纏め方についての説明が欲しい。正解の基準が分からなかった。
- ・ 「短く」という指示についてどれぐらいの短さにすべきかが分からなかった。
- ・ 挙手の後, 教師が中心人物を狸と決めてしまった。子供の「なぜ？」に答えていない。
- ・ 小学校1年生にこれらの「学習用語」を教えるのは難しい。もっと場面の様子や登場人物の行動に触れながら, 楽しく授業を行える雰囲気大切に, ポイントを絞って指導した方が良い。
- ・ リズム, スピード, 楽しさを工夫すべきだ。

□ 模擬授業2 『スイミー』（小2）

岩下 修 氏

プラス評価（特に良かったのはここだ。）

- ・ 先生の解釈に向かって読みを深められたのが良かった。
- ・ 人の考え次第で, いろいろな想像が出来る学習展開を知った。面白かった。
- ・ スピーディーで力強い発問と指示で我々を惹き付けてくれた。
- ・ たくさん考えて学べる発問が多かった。
- ・ 音読の仕方の指導, 「学習用語」の提示の仕方, 板書, 発問が良かった。
- ・ 「学習用語」にこだわっての授業が良かった。
- ・ 発問が面白く考えさせられた。
- ・ 「書かれてある内容」だけでなく, 「書かれていない内容」までを問い, 想像させる価値ある問いに出会わせていただけた。
- ・ 文章に書いていない内容まで考えさせ, 深く読み取らせる読解方法を学んだ。
- ・ 「さげんだ」理由は前の場面とのつながりを考えると深いものがある。参考になる切り口だった。
- ・ 読みに集中し, 思考を促す問かけが良かった。
- ・ 一つの言葉に目を付けて, みんなで考えるのが面白かった。
- ・ 感動でぞくぞくした。すごい発問だ。深い。教材文を読み込まねばならないという意欲が持てた。
- ・ 「学習用語」を具体的な発問の中で取り上げたため, 分かりやすい。
- ・ 理由を書き, 根拠を基に交流できる発問（スイミーが「目になろう。」と思いついたのはいつか。）を取り入れているのが良い。

マイナス評価（ここはこうしてほしい。）

- ・ 教師に引きずられ, 誘導尋問されているようでややせこましい。じっくり教材に向き合い, 自分で読み深める時間が欲しかった。
- ・ スイミーが教えた行動を細かく想像する場面で, 「迎えに行く。」「連れて行く。」の他に何を引き出したかったのか気になった。
- ・ こだわりの読解を強く前面に押し出した指導でオーソドックスな読みが薄くなった。
- ・ 面白い発問であったが, 意図が分かりにくかった。
- ・ 「どんな行動をして教えたか。」考えさせる場面はもっとさっと終わらせても良かった。
- ・ 2年生にはやや理屈が過ぎる内容であった。
- ・ 前の場面の「考えた。」との繋がりを考えるべきである。
- ・ スイミーが教えた時の行動を想像させる発問で授業者が何を求めているかはっきりせず, 答えが詰まった場面があった。叙述を根拠に想像させるか, そうでないならさらっと流した方が良い。
- ・ 正答, 解答が不明のまま。学力形成になるのか。
- ・ 板書をもっと精選したい。

□ 模擬授業3 『ちいちゃんのかげおくり』（小3）

照井孝司 氏

プラス評価（特に良かったのはここだ。）

- ・ 教師の発問・間の取り方・教室にほど良く響く教師の声・しっとり感・音読指導が良かった。
- ・ 音読をしっかりと教わると気持ちも引き締まり、内容も理解しやすくなった。面白かった。
- ・ 温かい雰囲気での発問や指示をし、その内容が適切だった。
- ・ 選択肢のある発問が参考になった。
- ・ 発問数が適度で、音読しながらの発問と先生の解説で理解が深まり、作品の中に入り込める。
- ・ 場面にこだわって、丁寧に授業されているのが良い。
- ・ 作品の冒頭から、普通の授業のように進めていただいて、良かった。教室で行われる授業のペースでこの続きを受けたい。
- ・ この物語でどんな発問をすべきか学んだ。音読の指導もなされていた。
- ・ 音読指導を具体的にしていたのが良かった。
- ・ とても分かりやすかった。「なるほど、このように進めていくのだな」と合点がいった。
- ・ 音読をしっかりと指導していたところが良かった。
- ・ 音読のきめ細やかな技術を疎かにしない丁寧な姿勢、上達を褒める優しさが素晴らしい。
- ・ 導入として物語の前半部分を音読させながら、これからの学習で必要となる「今後の展開」「人物像」「学習用語」「対比」などの情報を無理なく説明しているのが良かった。
- ・ 精選された軽重のある見事な板書だ。効果的な着語法や語りの速さ、大きさ、発音は模範である。

マイナス評価（ここはこうしてほしい。）

- ・ 子供が考え、発言し、頭を使う時間を増やして欲しかった。
- ・ 1時間この流れでお話を最後まで聞くのは、飽きてしまう子供がいそうな気がする。どんな工夫があるのかもっと聞きたかった。
- ・ 音読をさせる前に読み方を確認せず、自由に読ませてしまった。
- ・ 文章中に書いていない内容を推理させるのは、恣意的な読みに陥る懸念がある。
- ・ 「記念写真」の意味についても考えさせて欲しかった。
- ・ もっと長くやって欲しい。
- ・ いずれにしても根拠はないが、「墓参り」の解釈には、「この後、私（お父さん）もここに入ります。よろしくお願いします。」という解釈もある。

□ 模擬授業4 『わらぐつの中の神様』（小5）

秋田県教諭 氏

プラス評価（特に良かったのはここだ。）

- ・ 学ぶ内容が明確で、読解内容と音読の仕方との関連を学んだ。
- ・ 叙述から登場人物を読み取り、それが表現できるように音読することで自分なりの解釈が定着すると学んだ。
- ・ 考え得る限りの選択肢を先に提示して、読解を進めさせたのが良かった。
- ・ 発問の真意を伏せて音読させたところが巧妙だった。
- ・ 音読を手がかりに考えを深めていく手法が勉強になった。
- ・ 叙述の仕方に着目し、音読を手掛かりに読んでいく方法を学んだ。
- ・ 文末表現から心情を考える授業がとても参考になった。
- ・ 中心として扱った箇所は一カ所だけだったが、複数の解釈が生まれるだけでなく、その後の「読み方」にも繋がる内容だった。
- ・ 内容を読み取らせる発問、そして、それを音読の仕方に繋げる方法、「藁靴の中に神様だって」の言い方によって変わる内容の読み取り等が勉強になった。
- ・ 文末表現の「だって」の意味の違いに着目させたのが良い。
- ・ 「だって」の三文字で、文章の全体を見直したり、読解したり出来るのだなと感激し、感動した。とても良かった。
- ・ 主人公をイメージした表現読み、細やかな指導が良かった。主人公をイメージした根拠に大変驚いた。
- ・ 自分の学びを基にしながら、学習が進められていく喜びと多くの考えを交流しながら叙述にポイントを絞って焦点化していき、最終的に自分の学びがより深まる展開がとても良かった。
- ・ 授業話術、「学習用語」カード、板書文字が上々だ。

マイナス評価（ここはこうしてほしい。）

- ・ マサエの人柄はどれかひとつではなく、マサエの中に未成熟な状態で少しずつ混在しているのではないかな。
- ・ この単元のねらい「自分の考えをまとめよう。」という方向にどのように繋げていくかを知りたい。
- ・ 物語の登場人物の人柄や性格を詳しく知ることは、物語を詳しく読むことに繋がるのだと学んだ。
- ・ 人物像の捉え方は様々なので、多面的に捉えさせる指導が大切である。

- ・ もっと長くやって欲しい。
- ・ 立って読ませる積極的な意味は何か。じっくりと読むために座ったままでも良い。
- ・ 「だって」に時間をかける価値は何か。

□ 模擬授業5 『少年の日の思い出』（中1）

野口芳宏 氏

プラス評価（特に良かったのはここだ。）

- ・ 絞り込んで○×を問うたところが良かった。
- ・ 確かな解をもつ必要があるという立場に賛成だ。いくつかの答えがあっても良いのかも知れないが、正誤をちゃんと教えないと、今後の学習における読解内容にずれが生じる危険性がある。
- ・ 答え方の条件や指示内容が的を射ており、且つ、迫力があつた。
- ・ 自分の読み取らせ方の甘さに気づけた。
- ・ 国語学力を確かに身に付けさせるために正誤をはっきりさせる授業が必要だと学んだ。
- ・ 読解力を高めるために必要な授業の姿について考えさせられた。
- ・ 発問の切り口が鋭く、頭をフル回転させられた。「流石。」の一言である。
- ・ ○か×かをはっきりさせ、教師の解を明確に伝える授業、全員が参加し、向上する授業を改めて学ぼうという意欲が持てた。
- ・ 正誤をはっきりさせるためには、腹を括って教材研究をする必要があるのだと分かって良かった。
- ・ 教材の読み込みの深さに感心した。
- ・ 緊張感、有無を言わず選択を迫る指導技法が良かった。
- ・ 絶対的自信を持った指導が良かった。○か×かという問いが素晴らしい。
- ・ 「正誤をはっきりさせる。」「全員が参加する。」「学びの質を高める。」というねらいのお蔭で、緊張感があつた。

マイナス評価（ここはこうしてほしい。）

- ・ 文を読み込む時間を少し多めにとって欲しい。そうしないと印象や勘で○×をつけなくてはならなくなる。
- ・ 全く違う答えを言う子供、読みが足りない子供に対して、言葉の意味を理解させる手立てをもっと知りたかった。
- ・ 不安にさせないで欲しい。
- ・ 解を断定するための根拠が必要ではないか。エーミールは詳しく話され、説明されても納得しないし、怒りは収まらないだろう。
- ・ 「そうか、そうか、きみは……」には句点が無いのに、区切って考えるのは不自然である。
- ・ 「ぼく」が喉笛に飛びかかるところだった理由として、「今日また」は否定されたが、納得していない。
- ・ もっと長くやって欲しい。
- ・ 考えを巡らせている間に次の展開になってしまう時があり、一気に学習から置いていかれる感じがした。重要発問などは板書して欲しかった。

□ 模擬授業6 『走れメロス』（中2）

渡邊洋子 氏

プラス評価（特に良かったのはここだ。）

- ・ 文章を抜粋して比較する方法で、効果を考えられるのが良かった。
- ・ 作者・授業者・読者という三つの立場で考えられて出来て良かった。
- ・ 作品の描写の一部の有無の比較で読む面白さが分かった。
- ・ 比較して読む行為で読解が深まる指導法を学んだ。
- ・ 本時の学習テーマを最後に提示する効果を学んだ。
- ・ 本文の一部を抜いて、入っているのと比べるという授業は面白く、実際にやってみたい。
- ・ 4時間扱いの1時間分として「サスペンス効果」を扱う重み付けについて考えさせられた。
- ・ 文章の一部分をなくしたものとその部分があるものとの比較で、書き手の文章へのこだわり（気持ち）を学び、考える授業となっていた。
- ・ 「もし、この記述がなかったら……」という仮定での思考からサスペンス効果という言葉技術に気付かせ、その効果を実感させた。
- ・ 文体の特徴を教材の改編で比較して考えさせた指導が良かった。
- ・ サスペンス効果という言葉を知った。
- ・ 一部を削除した教材としていない教材を比較する活動で学ぶべき内容に焦点を当て、その効果を考えられた。
- ・ サスペンス効果に絞って教えたのが良かった。

マイナス評価（ここはこうしてほしい。）

- ・ 思考の場面で自分の考えをすぐには書きたくなった。

- ・ はじめから変更点が明示してある資料でじっくり考えたかった。
- ・ 最後の発問は、サスペンス効果そのものを考えるのか、他の所からもサスペンスを探すのかが分かりにくかった。
- ・ サスペンス効果は結果なので、このような効果をもたらす表現は作品全編にあるのではないか。
- ・ 発問がよく理解できなかった。
- ・ 発問の意図が理解できない場面があり、どの様に答えるべきか迷った。
- ・ 教材加工はしない方が良い。本来の教材文で十分に可能である。

☆パネル・ディスカッション

□ 討議１ 授業検討～それぞれの授業者が提案した言語技術を徹底検討する。～

プラス評価（特に良かったのはここだ。）

- ・ パネリストそれぞれの言語技術の扱い方を聞いたのが良かった。立場の違いから多くを学んだ。
- ・ 学びがとても多かった。
- ・ 根拠をもって理由を述べられる子供を育てたいという意欲が持てた。
- ・ 反対意見が活発に出たのが良かった。
- ・ 最初にパネリスト全員が話をしたのが良かった。
- ・ 各授業者の考えを広く聞いた。
- ・ 教師に身に付くではなく、子供に身に付けさせたい内容についての話題に限るべきだ。
- ・ 各学年で繰り返し、「学習用語」を活用させるのが大事である。
- ・ 『スイミー』の10ページにある「みんなは」については、やはり岩下先生のおっしゃる通りスイミーの内言である。
- ・ 正しい解について深く考えるきっかけとなった。
- ・ 多様な論者をつなぎ合わせる司会の手腕が見事だった。
- ・ 「正解のある問い」についての話が良かった。
- ・ 本音が聞けて良かった。
- ・ 発問に関する考え方を再確認できた。
- ・ 司会者はなかなかの裁きぶりだった。

マイナス評価（ここはこうしてほしい。）

- ・ 野口先生のお話をもっと聞きたかった。
- ・ もっと話を聞きたかった。
- ・ 「授業者が提案して言語技術を徹底検討する」というテーマであれば、スイミーがどうのこうのという話はいらない。もっと言語技術に絞ってディスカッションして欲しかった。
- ・ 討議のテーマに正対した「授業者が提案した言語技術」が参加者に共有されなかったのが残念だ。「指導案の項目」として位置づけ、縛りをかけるなどしてはどうか。
- ・ せっかく学年の段階を追って模擬授業を公開したので、低学年から中学校まで、どの辺りを大切にしていっていきかが明示されるようにテーマを設定し、議論の方向性がはっきりするようにしていただきたいかった。
- ・ 対立点について全員の考えを言わせる機会も必要である。「そこでの結論」も大切だ。

□ 討議２ 文学的文章で指導すべき言語技術を低学年・中学年・高学年・中学で厳選する。

プラス評価（特に良かったのはここだ。）

- ・ 様々な立場からの率直な意見とその根拠を聞けて、理解できる部分が多く、大変勉強になった。
- ・ 読解の正しい解を持つことは必要である。
- ・ 複数の手法が提案されたのが良かった。
- ・ 言語技術を用いた授業の在り方、指導法について深く考えた。
- ・ 主題についての考えが深められた。生徒に自由に発言させ、根拠を基に答えを出させる指導を大切にしたい。
- ・ 主題の是非についての話し合いで、主題を使わないという立場や考え方もあると知った。
- ・ 厳選の観点は難しいが、今後、本当に子供たちに役立つものかどうかという観点を大切にしたい。
- ・ 学習者目線と指導者目線を整理して言語技術教育を考える重要性が確認できた。大きな前進になる。
- ・ 教師がしっかりと言語技術を押さえ、子供たちがその力を自分の読みに使えるようにしていくという意味で非常に参考になるものだった。
- ・ 遠慮の無い議論が出来て良かった。

マイナス評価（ここはこうしてほしい。）

- ・ 厳選はされていなかった。

- ・ 時には解がなく想像を膨らませるような発問も面白い。
- ・ 討議1で言葉として形にならないまま、討議2を迎えたので心配していたが、やはり心配通りになってしまった。残念というのが正直な感想だ。
- ・ 「柳谷・幸坂理論」の②言語テキストの形態は「書くこと」領域で生かせる。「読むこと」領域では不要である。

□ 役員の評価

プラス評価（特に良かったのはここだ。）

- ・ 大変素晴らしい。感謝している。来年も来たい。
- ・ お忙しい中、有難かった。
- ・ 会場・資料・参加までの案内、これら全ての準備が良かった。
- ・ 非会員にもかかわらず、温かく迎えていただき感謝している。
- ・ 特に問題無い。
- ・ いつも親切にしてくださり有難い。
- ・ 昼食のサービスなど、大変有難い配慮をいただいた。
- ・ 支部単独で大会が開催できるのは、本支部だけである。皆様の意欲に敬服している。
- ・ 何度もメールをいただき、とても丁寧だった。特に前日のメールは有難かった。
- ・ 丁寧な対応だった。
- ・ 各々が提案してくださった授業や言葉はとても貴重な情報としてこれからの参考にさせていただく。
- ・ お世話様だった。皆様に感謝している。

マイナス評価（ここはこうしてほしい。）

- ・ 参加者名簿が配付されなかった。

□ 全体の評価

プラス評価（特に良かったのはここだ。）

- ・ 参加させていただき、感謝以外の言葉がでない。来年からどうにかして学生も連れて来られないか検討する。（全国大会もだが、それ以上に、北海道支部大会に参加させたい。）
- ・ 学びが多かった。
- ・ 一つの事象に対する複数の対立意見が聞けて良かった。
- ・ 文学的文章を今後どう指導するのが、子供たちにとって大切なのかを考えながら学ぶことができた。貴重な研修の場を提供してくださり、感謝している。
- ・ 「言語技術とは何か。」「結局、用語を教え込む指導なのか。」「言語技術は何のために高める必要があるのか。」これらについて自分の課題として考えていく。
- ・ 野口先生の最後の御発言にしびれた。さすが野口先生である。
- ・ お世話になり、勉強になった。
- ・ これほど熱い議論ができる研究会は珍しい。こういう会に身銭を切っていらっしゃる先生方が増えることを期待する。
- ・ 議論が沢山出来て良かった。
- ・ 一流の先生方の授業の一端に触れられて大変勉強になった。
- ・ 準備、運営御苦勞様だった。学びを明日からの授業に生かす。
- ・ とても勉強になった。感謝している。
- ・ アンケート用紙の様式について、梓に対して見出しが上なのか下なのか分かりにくい。見出しまで梓で囲むのも一案である。
- ・ よくこれだけの人が集まってくれた。努力に感謝申し上げる。

マイナス評価（ここはこうしてほしい。）

- ・ 日程が慌ただしく休憩が少なかった。